

洞 門に関する
調査表記入マニュアル

〔D050〕 洞 門 基 本

この調査表は、洞門（ロックシェッド）の主要な諸元（形式、延長、断面、幅員、線形、舗装等）に関するデータを登録するためのものである。

1. 一般的注意事項

- (1) データは次の単位で作成する。
 - 路線毎とする。
 - 洞門箇所毎とする。
 - 構造形式毎とする。
- (2) 洞門に関する写真・図面類については「D051洞門図面類」にて作成する。
- (3) 洞門に関する補修履歴については「D052洞門補修歴」にて作成する。
- (4) 洞門内の占用物件については「D053洞門占用物」にて作成する。

2. 記入事項

- (1) 工事番号
 - (2) 工事区分C
 - (3) 施設対応番号
 - (C) 地整C
 - (D) 事務所C
 - (E) 出張所C
 - (F) 路線
 - (G) 現旧区分C
 - (H) 整理番号1
 - (I) 整理番号2
 - (J) 整理番号3
 - (N) 補助番号
- 上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(H)、(I)、(J)、(N)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。

区 分	コード
上下線共通	0
上り線	1
下り線	2

(AA) 所在地自

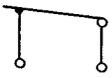
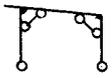
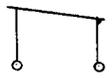
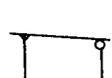
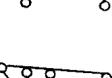
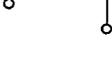
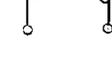
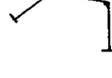
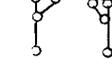
該当する区間の始点側の所在地（字番地まで）について、30文字以内の日本語で記入する。

(AB) 所在地至

該当する区間の終点側の所在地（字番地まで）について、30文字以内の日本語で記入する。

(AC) 構造形式区分C

構造形式について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
静定 	1 1	3次不静定 	2 1
1次不静定 	1 2	1次不静定 	2 2
3次不静定 	1 3	1次不静定 	2 3
1次不静定 	1 4	4次不静定 	2 4
2次不静定 	1 5	2次不静定 	2 5
静定 	1 6	1次不静定 	2 6
静定 	1 7	3次不静定 	2 7
静定 	1 8	5次不静定 	2 8
1次不静定 	1 9	単純梁 	2 9
2次不静定 	2 0	その他	9 9

(AE) 使用材料C

使用材料について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
RC構造	1
PC構造	2
鋼構造	3
その他	9

(AG) 雪荷重C

- (AI) 落石荷重C
- (AK) 土砂荷重C
- (AM) その他荷重C

上記 (AG) ~ (AM) については、設計において対象とした荷重の有無について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
対象とせず	0
対 象	1

(AO) 完成年月：◆

洞門が完成した年月を記入する。(年は西暦年で記入)

(記入例) 1986年 3月 ——> 198603

(AP) 延長 (m)：◆

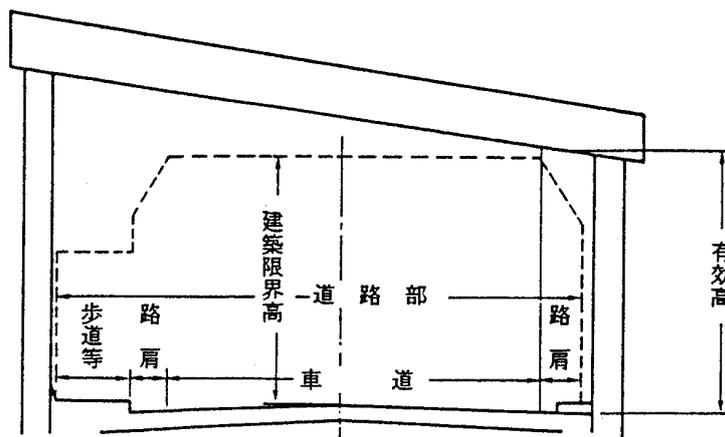
洞門の延長 (道路中心線上の延長) を、小数点以下1位まで記入する。

(AQ) 建築限界高 (m)：◆

洞門の内空建築限界高を、小数点以下2位まで記入する。

(AR) 有効高 (m)：◆

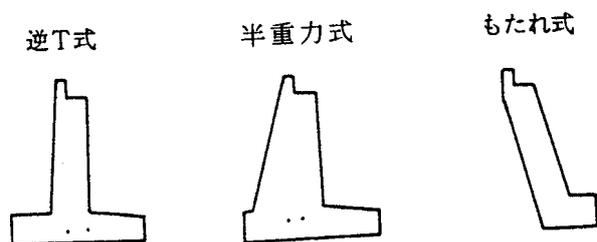
洞門の内空有効高 (車道端から鉛直線が壁面または天井板と交わるまでの高さ) を、小数点以下2位まで記入する。



(AS) 山側躯体形式C

山側受台の躯体形式について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
逆 T 式	1 1
半 重 力 式	1 2
重 力 式	1 3
も た れ 式	1 4
ラ ー メ ン 形 式	1 5
そ の 他	9 9



(AU) 山側基礎形式C

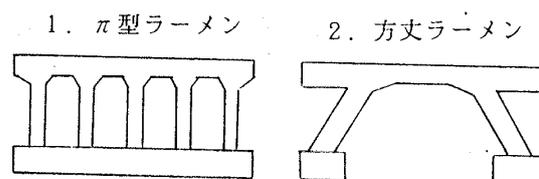
山側受台の基礎形式について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
直接基礎	1 1
杭基礎	1 2
場所打ぐい (深礎含む)	1 3
井筒基礎	1 4
その他	9 9

(AW) 谷側躯体形式C

谷側受台の躯体形式について、該当するコードを記入する。(イ型シェッドの場合は該当なしとして‘*’を記入)

区 分	コード
π型ラーメン	1 1
方丈ラーメン	1 2
そ の 他	9 9



(AY) 谷側基礎形式C

谷側受台の基礎形式について、該当するコードを記入する。（イ型シェッドの場合は該当なしとして‘*’を記入）

区 分	コード
直接基礎	1 1
杭 基 礎	1 2
場所打ぐい（深礎含む）	1 3
井筒基礎	1 4
そ の 他	9 9

(BA) 谷側材料形式C

谷側受台の材料形式について、該当するコードを記入する。（イ型シェッドの場合は該当なしとして‘*’を記入）

区 分	コード
鉄筋コンクリート	1
鋼 構 造	2
そ の 他	9

(BC) 屋根材料C

屋根の材料について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
R C構造	1
P C構造	2
鋼 構 造	3
そ の 他	9

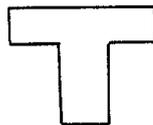
(BE) 屋根形状C

屋根の形状について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	
R C 構造	T桁形式	1 1
	スラブ形式	1 2
	その他	1 9
P C 構造	I型スラブ	2 1
	中空床版桁	2 2
	T桁形式	2 3
	その他	2 9
鋼構造	H型鋼	3 1
	箱桁	3 2
	パイプ構造	3 3
	その他	3 9

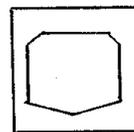
1. T桁形式

① R C 構造



1. I型スラブ 2. 中空床版桁 3. T桁形式

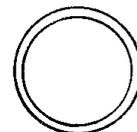
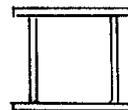
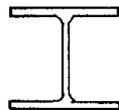
② P C 構造



1. H型鋼 2. 箱桁

3. パイプ構造

③ 鋼構造



(BG) 屋根勾配 (%)

屋根の勾配を、小数点以下2位まで記入する。なお、おがみ勾配及び複数の勾配がある場合は、最急勾配について記入する。

(BH) 緩衝材種類C

緩衝材の種類について、該当するコードを記入する。(緩衝材が設置されていない場合は‘*’を記入)

区 分	コード
砕 砂	1 1
海 砂	1 2
山 砂	1 3
そ の 他	9 9

(BJ) 緩衝材厚さ (cm)

緩衝材の厚さを記入する。(緩衝材が設置されていない場合は「*」を記入)

(BK) 緩衝材面積 (㎡)

緩衝材設置範囲の面積を記入する。(緩衝材が設置されていない場合は「*」を記入)

(BL) 塗装面積 (㎡)

洞門の塗装面積(のべ面積)を記入する。(塗装がなされていない場合は「*」を記入)

(BM) 道路幅 (m) : ◆

洞門内の道路部幅員(車道、路肩及び歩道等を加えた幅員)を、小数点以下2位まで記入する。

(BN) 車道幅 (m) : ◆

(BR) 左側車道幅、(BW) 右側車道幅をプラスした車道部幅員を、小数点以下2位まで記入する。

(BO) 歩道幅 (m) : ◆

(BP) 左側歩道幅、(BY) 右側歩道幅をプラスした歩道等幅員を、小数点以下2位まで記入する。

(BP) 左側歩道幅 (m) : ◆

洞門内の起点側から見て左側の歩道幅員(車道部と併設してある歩道、歩道+自転車道および自転車歩行者道の幅員)を、小数点以下2位まで記入する。

(BQ) 左側路肩幅 (m) : ◆

洞門内の起点側から見て左側の路肩幅を、小数点以下2位まで記入する。

(BR) 左側車道幅 (m) : ◆ 注1)

洞門内の起点側から見て左側の車道幅員を、小数点以下2位まで記入する。なお、車道幅員が明確でない場合は、車道と同一平面の路肩部分として片側2.5cmを車道幅員より差し引いたものと定義する。

(BS) 左側車線数 注1)

洞門内の起点側から見て左側の車線数を記入する。

(BT) 中央帯 (m) : ◆ 注2)

洞門内の中央帯の幅員を、小数点以下2位まで記入する。

(BU) 中央分離帯 (m) : ◆ 注2)

洞門内の中央分離帯の幅員を、小数点以下2位まで記入する。

(BV) 右側車線数 : (m) 注1)

洞門内の起点側から見て右側の車線数を記入する。

(BW) 右側車道幅 (m) : ◆ 注1)

洞門内の起点側から見て右側の車道幅員を、小数点以下2位まで記入する。なお、車道幅員が明確でない場合は、車道と同一平面の路肩部分として片側2.5cmを車道幅員より差し引いたものと定義する。

(BX) 右側路肩幅 (m) : ◆

洞門内の起点側から見て右側の路肩幅を、小数点以下2位まで記入する。

(BY) 右側歩道幅 (m) : ◆

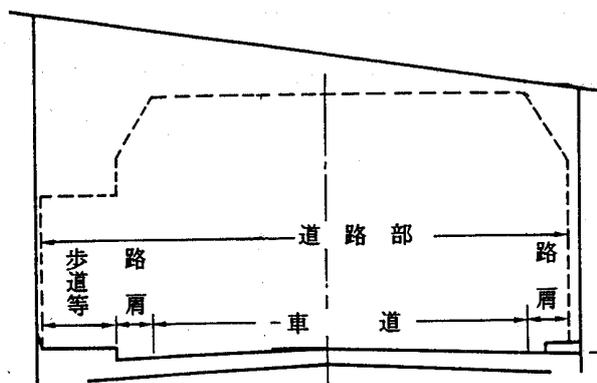
洞門内の起点側から見て右側の歩道幅員（車道部と併設してある歩道、歩道+自転車道および自転車歩行者道の幅員）を、小数点以下2位まで記入する。

注1) 上下線分離で1車線の場合

- ・(Y)上り・下り区分=2(下り線) : (BR)左側車道幅、(BS)左側車線数にそれぞれの値を記入し、(BW)右側車道幅、(BV)右側車線数は‘0’を記入する。
- ・(Y)上り・下り区分=1(上り線) : (BR)左側車道幅、(BS)左側車線数は‘0’を記入し、(BW)右側車道幅、(BV)右側車線数にはそれぞれの値を記入する。

注2) 上下線分離の場合

- ・(BT)中央帯、(BU)中央分離帯は‘0’を記入する。



(BZ) 縦断勾配符号C

洞門内の最急縦断勾配の符号について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	
水 平	0	注)
上 り	1	
下 り	2	

注) 上りとは路線の起点側から終点側に向かって上っていることをいう。

(CB) 縦断勾配 (%)

洞門内の最急縦断勾配を、小数点以下1位まで記入する。なお、水平の場合は「0. 0」を記入する。

(CH) 舗装種別C

洞門内の舗装種別について、該当するコードを記入する。なお、歩道と車道が併設されている場合は車道部について記入する。

区 分	コード	区 分	コード
未 舗 装	1	インターロッキング系	6
コンクリート系	2	透水性As系	7
アスファルト系	3	排水性As系	8
平板ブロック系	4	そ の 他	9
Asブロック系	5		

(CJ) 舗装厚さ (m)

洞門内の舗装厚（路床面から路面までの厚さ）を、小数点以下2位まで記入する。

(CL) 照明有無C

洞門内の照明の有無について、該当するコードを記入する。

区 分	コード
無 し	0
有 り	1

(CQ) ロードヒート有無C

洞門内及び出入口のロードヒーティングの有無について、該当するコードを記入する。

(CL) 照明有無Cのコード表と同様。

(CV) スノーシェッド併用C : ◆

洞門がスノーシェッドと併用か否かについて、該当するコードを記入する。

区 分	コード
併 用	1
単 独	2

(CX) 備考1

特記事項があれば50文字以内の日本語で記入する。

(CY) 備考2

特記事項があれば50文字以内の日本語で記入する。

(CZ) 市区町村自C：◆

該当する区間の始点側の市区町村名のコードを記入する。使用するコードは「全国市町村要覧」を参照し、「都道府県市区町村コード」を記入する。

(記入例) 茨城県鹿島郡旭村の場合 ——> コード：08401
(検査数字は含まない)

(DB) 市区町村至C

該当する区間の終点側の市区町村名のコードを記入する。使用するコードは「全国市町村要覧」を参照し、「都道府県市区町村コード」を記入する。

(記入例) 茨城県鹿島郡大洋村の場合 ——> コード：08403
(検査数字は含まない)

[D052] 洞門補修歴

この調査表は、洞門の補修履歴等に関するデータを登録するためのものである。

1. 一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

- 「D050洞門基本」の作成単位毎とする。
- 補修が行われた毎とする。

2. 記入事項

- (1) 工事番号
- (2) 工事区分C
- (3) 施設対応番号
- (C) 地整C
- (D) 事務所C
- (E) 出張所C
- (F) 路線
- (G) 現旧区分C
- (H) 整理番号1
- (I) 整理番号2

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(H)、(I)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編) §1. 共通注意事項」を参照のこと。

(P) 補修年月

補修を行った年月を記入する。(年は西暦で記入)

(記入例) 1985年10月 ——> 198510

(Q) 補修内容C

補修内容について、該当するコードを記入する。

区 分	コード	区 分	コード
舗装		山側受台（躯体）	
全面 打替え	1 0 1	補強	3 0 1
全面 オーバーレイ	1 0 2	修復	3 0 2
部分 打替え	1 0 3	その他	3 4 9
部分 オーバーレイ	1 0 4	山側受台（基礎）	
その他	1 4 9	補強	3 5 1
照明設備		修復	3 5 2
取替え	1 5 1	その他	3 9 9
部分修復	1 5 2	谷側受台（躯体）	
その他	1 5 3	補強	4 0 1
排水設備		修復	4 0 2
取替え	2 0 1	その他	4 4 9
部分修復	2 0 2	谷側受台（基礎）	
その他	2 4 9	補強	4 5 1
塗装全面塗替え	2 5 1	修復	4 5 2
部分塗替え	2 5 2	その他	4 9 9
		屋根部	
		桁の取替え	5 0 1
		補強	5 0 2
		屋根材の取替え	5 0 3
		補強	5 0 4
		その他	5 4 9
		その他	9 9 9

(S) 備考

損傷原因等について50文字以内の日本語で記入する。

[D053] 洞門 占用物

この調査表は、洞門内の占用物件に関するデータを登録するためのものである。

1. 一般的注意事項

データは次の単位で作成する。

- 「D050洞門基本」の作成単位毎とする。
- 占用物件毎とする。

2. 記入事項

- (1) 工事番号
- (2) 工事区分C
- (3) 施設対応番号
- (C) 地整C
- (D) 事務所C
- (E) 出張所C
- (F) 路線
- (G) 現旧区分C
- (H) 整理番号1
- (I) 整理番号2

上記(1)、(2)、(3)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(H)、(I)の記入方法については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル(共通編)」、§1. 共通注意事項」を参照のこと。

- (P) 占用物件種別C

占用物件種別について、該当するコードを記入する

区 分	コード	区 分	コード
上 水 道	1 1	ガ ス	1 7
工 業 用 水 道	1 2	道 路 情 報 板	1 8
農 業 用 水	1 3	道 路 標 識	1 9
下 水 道	1 4	通 信 ケーブル等	5 3
電 力	1 5	I ・ T ・ V	5 4
電 話	1 6	そ の 他	9 9

(S) 管理者名

占有物件の管理者名を、10文字以内の日本語で記入する。

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

1/2

D050：洞門（基本諸元）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
工事番号	半角16文字			○
工事区分C	半角1文字			○
施設対応番号	半角16文字			○
地整C	半角2文字			○
事務所C	半角2文字			○
出張所C	半角2文字			○
路線	9999		○	○
現旧区分C	半角1文字		○	○
整理番号1	半角8文字		○	○
整理番号2	半角4文字		○	○
整理番号3	半角4文字		○	○
補助番号	半角2文字		○	○
名称	全角10文字		○	○
百米標自	999.9	k m	○	○
距離自	9999	m	○	○
百米標至	999.9	k m	○	○
距離至	9999	m	○	○
施設完成年度	999	和暦		○
施設改修年度	999	和暦	○	○
上り下り区分C	半角1文字		○	○
所在地自	全角30文字			○
所在地至	全角30文字			○
構造形式区分C	半角2文字			○
使用材料C	半角1文字			○
雪荷重C	半角1文字			○
落石荷重C	半角1文字			○
土砂荷重C	半角1文字			○
その他荷重C	半角1文字			○
完成年月	199901	西暦	○	○
延長	9999.9	m	○	○
建築限界高	9.99	m	○	○
有効高	9.99	m	○	○
山側躯体形式C	半角2文字			○
山側基礎形式C	半角2文字			○
谷側躯体形式C	半角2文字			○
谷側基礎形式C	半角2文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照

道路施設基本データ作成対象項目一覧表

D050：洞門（基本諸元）

項目名	入力書式		CSV作成対象	
	データ表現	単位	全国版 SYOGEN	中国版 SYOGEN_0
谷側材料形式C	半角1文字			○
屋根材料C	半角1文字			○
屋根形状C	半角2文字			○
屋根勾配	99.99	%		○
緩衝材種類C	半角2文字			○
緩衝材厚さ	999	c m		○
緩衝材面積	9999	m 2		○
塗装面積	9999	m 2		○
道路幅	99.99	m	○	○
車道幅	99.99	m	○	○
歩道幅	99.99	m	○	○
左側歩道幅	99.99	m	○	○
左側路肩幅	99.99	m	○	○
左側車道幅	99.99	m	○	○
左側車線数	9			○
中央帯	99.99	m	○	○
中央分離帯	99.99	m	○	○
右側車線数	9			○
右側車道幅	99.99	m	○	○
右側路肩幅	99.99	m	○	○
右側歩道幅	99.99	m	○	○
縦断勾配符号C	半角1文字			○
縦断勾配	99.9	%		○
舗装種別C	半角1文字			○
舗装厚さ	9.99	m		○
照明有無C	半角1文字			○
ロードヒーティング有無C	半角1文字			○
スノーシェッド併用C	半角1文字		○	○
備考1	全角50文字			○
備考2	全角50文字			○
市区町村自C	半角5文字		○	○
市区町村至C	半角5文字			○

※データ部記入内容詳細については、別途「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」参照